

# まちの話題



11/5

## 新道の駅おとふけ 愛称募集に係る表彰

新道の駅おとふけの愛称募集に係る表彰式がふれあい交流館で行われ、受賞者と関係者合わせて30人が参加しました。愛称は全国から1,021件（669人）の応募があり、<sup>ゆるづゆ</sup>緩詰健司さん（大阪府）の「なつぞらのふる里」が最優秀賞に選ばれました。リモートで参加した緩詰さんは「昔、音更町に訪れたことがあり、愛称に選ばれ不思議な縁を感じている。4月のオープンに訪れるのが楽しみ」と謝辞を述べました。



11/24

## 町内会役員研修会 を開催

町内会役員を対象として「加入促進、新たな参加、担い手呼び込む町内会の運営と活動」をテーマに研修会が文化センターで開催され、各町内会長など91人が参加しました。講師は合同会社フォーティR&C代表の水津陽子さん。「町内会の加入率減少や担い手不足などの課題解決には、組織運営の見直しやIT活用などの思い切った改革も必要」と話し、参加者は熱心に耳を傾けていました。





## 音更認定子ども園が 文部科学大臣賞



音更認定子ども園が、学校安全部門で文部科学大臣賞を受賞し、同園長の白木幸久さんが町長を表敬訪問しました。同園は開園当初からカードキーによる登降園システムの導入や安全ゾーンとして園内を3つに分けるなど、安全確保の先進的な取り組みを進めてきました。白木さんは「大切な園児を守るため、これからも取り組みを進めたい」と話していました。



## 緑陽台小学校で 学習発表会が開催



緑陽台小学校の学習発表会が行われ、子どもたちは劇や合奏など、これまでの練習の成果を全力で披露しました。4年生の「音更どうでしょう」は、町の特産品などをせりふにしたコミカルな内容で大きな拍手が起こりました。校長の大庭奈穂子さんは、「子どもたちが練習時に学んだことは、大人になったときに大切な力になります」と話していました。



## 軽米町・音更町小学生 絵画交流作品展開催



姉妹町である岩手県軽米町との交流をコロナ禍でも継続させるため、昨年に引き続き、絵画交流作品展が図書館で開催されました。両町の小学校5年生が作成した絵画作品のほか、軽米町についての紹介や、広報おとふけに掲載している「岩手県軽米町だより」の年間バックナンバーの掲示なども行われ、来館した人々の目を楽しませました。



## テニスで楽しく交流



音更高校テニス部と、総合型地域スポーツクラブおん・おーるに参加する子どもたちがテニス交流会を行いました。音更高校の体育館に集まった20人の子どもたちと生徒は、ラリーの練習や3ポイント先取の打ち合いなどを行い、交流はとても盛り上がりました。参加した児童は「高校生のお兄さんお姉さんに教えてもらえて楽しかった」と笑顔で話しました。